進路ジャーナル



青森県立森田養護学校
進路指導部６月号
発行日　Ｒ８．６．１９

６月１日～１２日まで行われた、高等部の産業現場等における実習が終了しました。期間中は、真夏を思わせる暑さとなり、その後は4月下旬のように肌寒い日が続くなど、気温の変化が大きい中での実習となりました。そのため、今回の実習は、作業面だけでなく、日々気持ちよく安心して働くために大切な生活面についても確認する絶好の機会となりました。気温に合わせて衣服を調節したり、天気予報を見て傘を準備したりするなど、自分で考えて行動する場面において、まだ支援が必要な様子も見られました。

働く上では、こうした日々の準備や体調管理も大切な力の一つです。今後はご家庭とも連携しながら、天気や気温に関心をもち、自分で身の回りのことを整えていく力を少しずつ育てていければと考えています。

高等部産業現場等における実習

高等部前期産業現場等における実習から、１年生の集団実習の様子をご紹介します。

１年生（集団実習）は、つがる地球村での環境整備と校内実習に取り組みました。１組は、「一定時間、同じ作業をすることに慣れる」ことや、「集団行動のルールを守りながら、作業に取り組む態度を養う」ことを目的に、実習に取り組みました。初めての活動ということもありましたが、実習を進めていく中で、活動に見通しをもち、一人で作業に取り組み続けられる様子が見られるようになりました。



環境整備では、草捨て場までを一人で2点間移動できました。暑い日、肌寒い日がありましたが、それぞれの仕事量を時間いっぱい取り組み続けることができ、短い期間での成長を感じることができました。草を刈った後の草寄せまで手が回らないとのことだったので、地球村の方にも喜んでもらえる作業となりました。







4組は、「長時間の仕事に取り組むことを通して、働くための体力と意識を高める」や、「自分の役割を理解し、最後まで仕事をやり遂げようとする態度を養う」ことを目標に実習に取り組みました。実習6日目は、朝から雨模様だったため、終日校内実習（フルーツネット返し）となりました。午前4時間、午後50分間のトータル5時間弱、ずっと同じ作業に取り組み続けた結果、1日で6000枚ものフルーツネットを折り返すことができました。5時間も同じ作業を続ける・・・自分にできるだろうか？と考えてみると、生徒の持続力、集中力のすごさを感じられるのではないでしょうか？



1週目は、つがる地球村までは徒歩で移動しました（往復）。途中、休憩をはさみ、25分程度で到着します。誰一人、遅れることなく歩くことができていました。
（近隣で熊の足跡が見つかったため、2週目はスクールバスでの移動となりました。）



















地球村で作業していた業者の方から、プリンの差し入れをいただきました。
頑張っていると、ちょっぴりいいこともあるみたいです。おいしいプリンでパワーチャージできました。ありがとうございました。



フルーツネットの納品直前。1週間でこんなにできました。



地球村の休憩室前の玄関。初めは脱ぎ捨てられていましたが、「並べてくださいね」と一度言われただけで、毎回自分で揃えるようになりました。